

# わかやま

No.20

和歌山県精神保健福祉センターだより

2004年7月

## 「“こころ”を考えて」

和歌山県立こころの医療センター院長 馬島 将行

最近我が国では、いろいろな形で“こころ”の問題が取り上げられてきています。特にこの十年余り、思春期の問題が大きく取り上げられています。しかし、思春期の子どもたちの“こころ”の問題が、不幸な出来事で取り上げられているということは残念なことです。これらの出来事で、加害者や被害者のことについてさまざまな報道がされていますが、これらの問題をどのように理解して、受け止めていけば良いのかは、なかなか簡単な問題ではないと思います。この思春期の子どもたちの問題を一言で語るわけにはいきませんが、その基本的なことは、子どもたちの“こころの発達”の問題を私たちはもっと真剣に考えていかなければならないと思うのです。

“わたしの中の別なところが痛い！”とある小学一年生の女の子が訴えます。私たちはこの女の子の“こころの痛み”をどのように理解して、受け止めていけばいいのでしょうか。これは、その女の子の特別な問題ではないと思うのです。私たち大人は、子どもたちが今何を考え、何に戸惑い、何にぶつかって悩んでいるのかという視点で、日頃から子どもたちと接しているでしょうか。子どもの地点に立ってみていこうという姿勢に欠けているように思われます。

“こころ”の問題は、小さい子どもたちや思春期の青少年の問題だけではなく、青年たちも大変です。大学へ行ったけれど、社会に出たけれど、世の中にたくさん情報はあるけれど、自分は何処に行けばいいのかなかなか見えません。自分の自己確立をどうしていけばいいのか迷います。強いものが勝ち弱いものは生きていけない競争社会の中で、自分は何を持って立ち向かっていけるのか。青年たちは、その試行錯誤の中で自己を確立できなくて戸惑っています。

“ただボーとチャットを眺めています！”と悩む青年がいます。この青年の悩みに対して、私たちは回答を持っているでしょうか。しかし、この青年の悩みを、自分たちの問題として、一緒に悩んでいく必要があります。

“こころ”を痛ませるのは、子どもや青年たちだけではなく、思うように体が動かなくなり、今までできてきた事も十分にできなくなり、人の援助を受けていかなければなくなってきて、自己の限界を思い知らされ、この先自分は、“ボケてしまうのではないか”と不安になっている年寄った人々もたくさんいます。安心して過ごしていける社会は、成熟された社会と言うのだろうかけれども、年老いて自分たちはどのようになっていくのかという不安は、悲しいものです。

私たち大人の世界も、そんなに安泰な状況にはありません。能力主義の賃金体制の変化やリストラの恐怖の中で、“家族の生活を守っていけるのか？と不安を解消できずに落ち込む壮年の人々、育児や家事、パートなどで忙しく一生懸命に働いてきたけれど、“自分の人生は一体なんであったのか？”と困惑する女性たち。私たち自身も、自分自身を確認していかなければならない状況におかれているのです。

県立こころの医療センターは、このようなさまざまな問題でこころの悩みや病を抱えている人々の手助けができればと考えています。

## もくじ

- P 1 “こころ”を考えて
- P 2 あるべきお
- P 3 日本自閉症協会和歌山県支部
- P 4 精神保健福祉センター書籍・ビデオ一覧  
朝井所長のひとりごと
- P 5 メンタルヘルスニュース
- P 6 は一とふるネットワーク「上富田町保健センター 鈴木 綾さん」  
研修のお知らせ

和歌山県精神保健福祉センター

〒640-8319 和歌山市手平二丁目1番2号 県民交流プラザ“和歌山ビッグ愛”2階

☎ (073) 435-5194 FAX (073) 435-5193

<http://www.pref.wakayama.lg.jp/prefg/050300/050301/index.htm>

このコーナーでは県下の社会復帰施設を紹介します。

第8回は、橋本市にある「あるべじお」です。

## あるべじお

精神障害者の家族によって憩いの家共同作業所が創られてから30年あまり。

この間、何度も何度も作業所の存続の危機に遭遇しながらも、憩いの家共同作業所のスピリットは世代を超えて受け継がれ「あるべじお」という社会福祉法人施設として、ひとつの完成形に至りました。

憩いの家共同作業所を法人認可へ・・・そう考えたのは5年前でした。メンバーの増加に伴い、そのニーズも多種多様化するのとは当然のことです。しかし当時はまだ無認可小規模作業所。脆弱な基盤の職員体制で、しかも無認可。とうてい、メンバー全員のニーズに応えることは難しい状況でした。メンバーの将来を考えると、無認可のままでは十分支援ができないと思い、法人認可へ向けて動き出しました。諸先輩方から「5年かかる。」と言われた通り、本当に5年かかってしまいました。

(笑) もちろん初めてのことでですので、要領が悪いのは当然です。もう少し要領よくできていれば、2年でできたのに・・・と今となって思うのですが、そんなこと当時の私達にはわかるはずもありません。しかし、遠回りした分、多くの事を学びました。また数々の局面で地域の皆様をはじめ、多くの方々、ご支援並びにご声援いただいたことは、本当にありがたく、感謝の言葉もありません。いまから思えば、それが「あるべじお」の一番の財産になったと思います。

そんなたくさんの方々思いが詰まった「あるべじお」は、ようやく船出の時を迎えました。この先、決して順風満帆とはいかないでしょうが、これだけ多くの人々に支えられた私たちの船は、たとえ嵐に遭遇しても、決して沈むことはないでしょう。施設長以下、優秀な職員もそろってますし・・・ネ。



しいたけ作業中

### あるべじお

運営主体 会福祉法人 筍憩会

代表者 理事長 中井 康人

所在地

〒648-0074 和歌山県橋本市野5-1

電話番号 0736-32-8246

開所曜日 月曜日～金曜日

(しいたけ栽培のみフレックス制)

開所時間 8:30～17:00

作業時間 10:00～12:00

13:00～15:00

授産内容

しいたけ栽培、EMボカシの製造



EMボカシ作業中

このコーナーでは、シリーズで県内の組織やグループの活動を紹介します。  
今回は、「日本自閉症協会和歌山県支部」です。

## 日本自閉症協会和歌山県支部

自閉症という障害をご存知でしょうか？

自閉症は心理的な原因（親の育て方や環境等）で生じる情緒障害ではありません。

自閉症は生まれつきの脳障害です。  
脳の機能障害が原因ではないかと思われています。

せまい意味での（典型的な）自閉症は、児童1,000人に約3人いるといわれ、広汎性発達障害あるいは自閉症スペクトラム障害も含めると、児童100人に1人いるという人もいて、それほど稀な障害ではないとされています。

自閉症の原因は、脳の中枢神経の機能障害により起こると想定されるようになりました。なぜ中枢神経の障害が起こるのか、脳のどの部分や、どの機能系の障害なのかを含め、障害の本体やそのメカニズムは、いまだ明らかにされていません。

### <自閉症の特徴>

- ・言葉の発達の遅れ
- ・対人関係の困難さ
- ・アンバランスな感覚
- ・活動や興味の範囲が狭い
- ・アンバランスな知的機能
- ・変化に対する不安や抵抗



私たちの団体は、昭和52年4月に和歌山県自閉症児・者親の会として発足し、平成元年に自閉症児・者親の会全国協議会が社団法人日本自閉症協会を設立したことに伴い社団法人日本自閉症協会和歌山県支部と名称を変更しました。

会員は親のみならず専門家の方々の入会もあり、現在の会員数は賛助会員も含めて165名です。自閉症児・者やその家族にとって暮らしやすい県にしていきたいと願い、県との対話集会・研修・療育キャンプ・啓発などの活動を行っています。また県下を三つのブロックに分け、それぞれに勉強会・親睦会等の活動をしています。



HP <http://www.w-hope.com/asw/>

### <事務局>

〒640-8304

和歌山市松島23-29 石橋 智恵子方

TEL/FAX 073-472-9881

E-mail [chieko@d2.dion.ne.jp](mailto:chieko@d2.dion.ne.jp)



平成15年度購入 精神保健福祉センター書籍・ビデオ一覧

精神障害者が使える福祉制度のてびき2004		全国精神障害者家族会連合会
hikikomori@NHKひきこもり	斉藤環	NHK出版
薬物依存研究の最前線	加藤信也	星和書店
依存性薬物と乱用・依存・中毒	和田清	星和書店
精神保健福祉実践ハンドブック	住友雄資 他	日総研
研修医のための精神医学入門	石井毅	星和書店
精神保健マニュアル第3版		南山堂
全国ひきこもり不登校援助団体レポート		ポッポ社
精神障害者の事件と犯罪	滝沢武久	中央法規
発達障害の子どもたち	細川徹	中央法規
生活にいかすカウンセリング心理学	國分康孝	中央法規
図説精神障害リハビリテーション	野中猛	中央法規
高機能自閉症・アスペルガー症候群	吉田友子	中央法規
はじめて学ぶ人の臨床心理学	杉原一昭	中央法規
親と研修のためのLD相談室	山口薫	中央法規
面接のプログラム学習	援助技術研究会訳	相川書房
利用者主導を貫く精神障害者ケアマネジメントの実践技術	三品桂子	へるす出版
精神障害者のケアマネジメント	日本精神保健福祉士協会	へるす出版
新しい風が吹くまちで(ビデオ)		全国精神障害者家族会連合会
ひきこもり完全脱出マニュアル(第1講)(ビデオ)	斉藤環	ピーイーエデュケーション
ひきこもり完全脱出マニュアル(第1講)(ビデオ)	斉藤環	ピーイーエデュケーション
あせらずに・ゆとりをもって、むりしない ～病気・くすり・くらし～前編(ビデオ)		全国精神障害者家族会連合会
あせらずに・ゆとりをもって、むりしない ～病気・くすり・くらし～後編(ビデオ)		全国精神障害者家族会連合会
精神障害者就業支援中央セミナー(ビデオ)		精神障害者職業自立啓発事業企画委員会

## 朝井所長のひとりごと

プロ野球もオールスター戦で、長いペナントレースの半分が過ぎた。  
だが、今年のプロ野球はもう一つもの足りない。  
「何故だろう？」

阪神が弱いから？それとも巨人が今一つだから？そんなものは理由にならない。

オールスター戦はパリーグの2連勝に終わった。  
パフォーマンスは新庄選手ぐらい。ホームスチールも今一つ。

オールスター戦の間の一週間休みに、疲れた選手は身体を休め、調子が出ない選手はミニキャンプをはる。

その間に、長嶋ジャパンとキューバの試合をテレビで見る。  
だが、キューバとの試合も今一つもの足りない。結果は日本の一分け一敗。  
キューバ戦でも長嶋は姿を現さない。  
オリンピックに長嶋は行けるのか？と少々心配になる。  
それに金メダルが取れるのか？

愚生も65歳。来年の3月に定年を迎える。  
来年の3月が気になるのか、65歳になって体力と気力が落ちてきているためか。  
そういう自分自身の気力の無さが、  
野球を見たりサッカーを見たりする面白みを押さえてしまっている気がする。

この数年、夏の期間は体力と気力がものすごく気になるし、ビールもあまり美味しくない。

これもやはり年齢のため？



県内の精神保健福祉関連の最新情報と当センターの活動をお知らせします。

## ♡ 精神保健福祉関連新任者・市町村職員合同研修

6月16日・17日の二日間に渡り、

- ・精神保健福祉の基礎知識（疾患・制度・歴史）
- ・援助の方法（相談の実際）
- ・精神保健福祉活動の理論と実際
- ・関係機関との連携

をテーマに実施し、47名が受講されました。連携については、病院、施設、行政から具体的で解りやすい事例発表がありました。内容的には基礎的な事柄が中心となりましたが、従事していく上で大切なポイントとなる研修でした。

## ♡ 精神障害者訪問介護員（ホームヘルパー）研修

6月30日（講義）、7月上旬の一日（施設研修）の延べ2日間に渡り、今回も定員いっぱいの130名の方が受講されました。「精神障害について勉強するのは初めて。」という方も多く、受講生からは「勉強になった。」という感想が多く聞かれました。今後、受講生皆さんの現場でのご活躍を期待します。

## ♡ ひきこもり研修

社会問題として大きく取り上げられてきているひきこもりへの対策として、保健所を中心とした相談関係者30名を対象に、7月2、3日に行われました。講師に家族療法を実践されている吉川悟先生を招き、ロールプレイなどの実践ワークを中心とした中身の濃い研修となりました。

## ♡ 精神障害者社会復帰関連問題研修

午前中の職親会発足を受けて7月17日（土）同研修会が南部町保健福祉センターで行われました。第1部は、館暁夫教授（西南学院大学社会福祉学部）の就労支援のしくみに関する講義、第2部は就業・生活支援センター、職親、障害者職業センターからの報告を受け、障害者の就労支援について学びました。（写真下）



館暁夫先生

## ◇ 第1回 交流ロビー展

県内の精神保健福祉関係団体の活動のPRと精神保健福祉センター交流ロビーの活用を目的に、当センターでの交流ロビー展を開催しました。第1回は和歌山県精神障害者家族会連合会が参加してくれました（6月28日から30日）。当事者作品（絵画、小物等）、関連書籍の販売等が行われました。今後も各団体の参加を予定しておりますので、ビッグ愛にお越しの際は是非お立ち寄り下さい。



## ◇ 薬物依存症者回復支援ネットワーク会議の開催

薬物依存症者が回復出来るシステム作りを支援することを目的に、各関連機関が当センターに定期的に集まり、ネットワーク作り、支援方法を一緒に考えています。（5月、7月開催）。

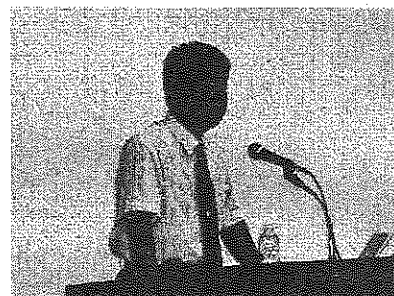
## ◇ 精神障害者通所授産施設「あるべじお」竣工

6月13日、伊都地方で待望の精神障害者授産施設「あるべじお」の竣工式が行われました。（詳細はP2に）。

◇ 障害者就業・生活支援センター「つれもて」活動開始  
表の郷 和歌山生活支援センター内で障害者の就労支援を目的にした同センターが活動を開始しました。

## ◇ 社会適応訓練事業職親会発足

7月17日、南部町保健福祉センターにて発足会が行われました。



吉川悟先生

## 精神保健福祉協会の活動

### ◇ 精神保健福祉講座

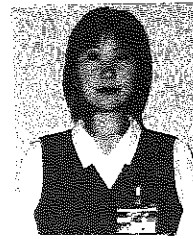
5月30日、かつらぎ町あじさいホールにて、生駒芳久先生（こころの医療センター医師）を講師に「こころって何？」をテーマに一般講演会を開催しました。50人の参加があり、こころの健康についてたくさんの方が興味を持ってくださいました。

### ◇ 精神保健福祉協会総会・講演会（和歌山こころの集い）

7月1日ビッグ愛大ホールにて定期総会及び協会会長表彰、家族療法の吉川悟先生をお招きしての講演「家族は今」を行いました。会員及び一般100名の方々が参加されました。（写真上）

### ◇ 「こころ」20号の発行

精神保健福祉の第一線で働く関係スタッフの紹介コーナーを作りました。  
今回は、初めて社会福祉士の登場です。  
上富田町保健センターの鈴木綾さんにお話を伺いました。



## はーとふるネットワーク

- 一 社会福祉士として就職して何年になりますか？  
今年で3年目です。
- 一 社会福祉士になろうと思ったきっかけは何ですか？  
大学の先輩から話を聞いて、社会福祉士の仕事に興味を持ちました。
- 一 この仕事をしていて良かったと思った時はどんな時ですか？  
家族との会話がほとんどなく、周囲からも孤立した生活を送っていた方が病院や保健所、民生委員さん等、大勢の方々の協力を得て、作業所通所に向けての支援を一緒に出来た事ですね。たまに作業所を尋ねると笑顔で近寄って来てくれ、「元気？」と声を掛けてくれます。今では毎日休まず通所し、頑張って作業をしています。
- 一 町の保健センターのお仕事で主にどんなことをされていますか？また、日頃心がけている事があれば教えてください。  
障害者(児)福祉の担当をしています。(主に知的障害者(児)・精神障害者に関する業務です。)  
療育手帳関係、特別児童扶養手当等の諸手当事務、支援費関係、精神障害者保健福祉手帳関係、通院医療費公費負担事務、精神障害者居宅生活支援事業関係、相談、訪問 etc.  
保健センター内には私が所属する福祉係以外にも環境衛生係や保健対策係も一緒に仕事をしているので人手が足りない時には猫の死骸を引き取りに行ったり、総合検診の受付を手伝ったりもしていますよ！

- 一 上富田町のPRをちょこっとお願いします。  
上富田町は熊野路が中辺路街道と大辺路街道に分かれる分岐点、口熊野に位置しています。また、大賀ハス・秋桜等、花いっぱい豊かな自然に恵まれた町です。国道311号口熊野街道を走る「紀州口熊野マラソン」や多目的グラウンド等を備えたスポーツセンターには全国から多くの人々が訪れます。そんな文化とスポーツの町が上富田町です。
- 一 休日はどうのように過ごされていますか？  
友達と温泉に行ったり、最近では職場の保健師さん達と熊野古道ウォーキングに出かけています。山の中で食べるお弁当は最高ですよ！紀南の恵まれた自然を満喫しています。
- 一 今後の抱負を教えてください。  
平成14年4月から精神保健福祉業務の一部が市町村に移譲され、平成15年4月からは支援費制度がスタートし、障害者支援をめぐる情勢が目まぐるしく変化している中、利用者にとって身近な自治体である市町村の役割が今後ますます重要になってきます。住民の声に耳を傾け、考えや価値観を尊重していけるよう努めたいと思っています。
- 一 鈴木さんから、次の方の紹介をお願いします。  
仕事のことは勿論、プライベートでも大変お世話になっている白浜町役場保健師講初景子さんを紹介します。(彼女は私と違ってしっかり者で頭がキレます。)  
疲れがたまってくるとご飯を食べに行ったり、買い物やドライブに出かけたり(バッティングセンターに行ったことも・・・)二人で楽しくストレスを発散しています。

### センターの研修等のお知らせ

- ころの健康講座 (対象：一般県民)  
日時 8月10日(火) 13:00～15:00  
場所 岩出町総合保健福祉センター (あいあいセンター)  
テーマ  
講演「もし家族がうつ病になったら」  
講師 和歌山県立医科大学神経精神医学教室教授 篠崎 和弘  
参加申し込み受付中  
\* 同テーマで来年2/8紀南会場で開催予定。
- 精神障害者訪問介護員講習会  
日時  
第1日目 講義 9月10日(金) 場所 東牟婁振興局  
第2日目 施設研修 未定 場所 どんぐりの家  
定員 30人  
(ホームヘルパーの資格を有する者又は、介護福祉士の資格を有し勤務する者等)  
申し込み締め切り：8月9日(定員になり次第締め切ります)

- 精神障害者訪問介護員フォローアップ講習会  
日時 10月27日(水)  
場所 和歌山ビッグ愛  
講師 三田 優子先生(花園大学)
- 精神科医療看護職員等人権セミナー  
10月に開催予定



- 第1回精神障害者ソフトバレーボール和歌山県大会 (和歌山県作業療法士会と共催)  
日時 11月4日(木)  
場所 和歌山ビッグホエール  
参加チーム及びボランティア募集中
- ころのフェスティバル(人権フェスティバルと共催)  
日時 12月4日(土)・5日(日)  
場所 和歌山ビッグホエール

平成16年度全国精神障害者適応訓練事業研修会 兵庫大会 「当事者の“働きたい”にどう応える？～兵庫から～」	8/26(木)～8/27(金)	シサイト'村」 舞子ビラ神戸 (問い合わせ 078-252-4980)
第9回 登校拒否・不登校問題 全国のつどい in 和歌山	8/28(土)～8/29(日)	白浜町「ホテルシーモア」 (問い合わせ 073-424-5449)
高齢化社会における痴呆ケア 国際アルツハイマー病協会 第20回国際会議・京都・2004	10/15(金)～10/17(日)	国立京都国際会館 (問い合わせ 075-823-6544)

### 編集後記

5年ぶりにセンターに舞い戻り、当紙の編集に携わる事となりました。この仕事を通して改めて精神保健福祉に携わる方々との“つながり”を実感しています。ご寄稿いただいた皆様、本当にありがとうございます。創刊当初から編集・発行のお手伝いをしていただいている万里子さんと共に『わかやま』を皆様にお届け出来る様頑張りますので、よろしくお願い致します。